

IR HANDBOOK

第73期

第2四半期のご報告

2021.4.1—2021.9.30



私たち松田産業は、限りある地球資源を有効活用し、業を通じて社会に貢献します

貴金属関連事業

VISION / “東アジアで資源循環を創造するリーディングカンパニー”

セグメント従業員数

1,139名

2021年9月30日現在

事業の成り立ち

ルーツ: 1935年、フィルムなど写真感光材料から銀の回収・製錬を開始



銀の製造は金、白金族の貴金属事業へと展開。定着液や現像液の処理を伴うことから、環境事業としても発展

価値創造フロー

松田産業株式会社
MATSUDA SANGYO CO., LTD.



分析/前処理/製錬/精製 無害化中間処理

回収



貴金属回収装置 収集運搬用車両

商社等



貴金属地金

加工/販売



貴金属化成品 薄膜形成材料

エレクトロニクス業界等



貴金属含有スクラップ 廃酸・廃アルカリなど

貴金属事業の概要

- ・貴金属回収製錬、貴金属材料・製商品の製造販売および薄膜形成装置治具の洗浄を展開
- ・エレクトロニクス、宝飾、歯科、触媒業界などが主要顧客

貴金属事業の強み

- ① 安定的なサプライチェーンに貢献する循環型ビジネスモデル、高純度の貴金属を精製する高度な技術、一貫した貴金属リサイクルシステムを提供
- ② 東アジアで展開する貴金属原料集荷と貴金属材料・製商品供給のネットワーク
- ③ 高度なリサイクル技術から生み出された貴金属地金ブランドへの信頼
- ④ 治具の再生とともに、貴金属を回収リサイクルする精密洗浄

環境事業の概要

- ・廃酸、廃アルカリ、廃油、汚泥、廃プラなど産業廃棄物の収集運搬、無害化処理および資源リサイクルを展開
- ・エレクトロニクス、化学・製薬業界、医療機関等が主要顧客

環境事業の強み

- ① 産業廃棄物の無害化処理技術と有効利用で、お客様のゼロエミッション達成に向けた効率的な再資源化リサイクルに貢献
- ② 全国をカバーする国内屈指の収集運搬リサイクルネットワーク

貢献できる社会的課題: SDGs



当社グループは、限りある資源・貴金属をリサイクルして有効活用する「貴金属事業」、きれいな環境を次世代に引き継ぐ「環境事業」、地球の豊かな恵み、食資源を安定的に供給する「食品事業」の3事業を展開しています。

貴金属関連事業と食品関連事業の双方を成長の牽引役とし、当社事業と社会が持続的かつ相互的に発展するサイクルを展開させていきます。

食品関連事業

VISION / “お客様の商品開発のベストパートナー”

セグメント従業員数

266名

2021年9月30日現在

事業の成り立ち

ルーツ: 1948年、食品加工メーカーのマヨネーズ製造過程で不要となった卵白を、かまぼこなど練り製品業界向けに販売



魚肉すりみをはじめとした水産品や農産品・畜産品の取り扱いへと拡大



価値創造フロー

松田産業株式会社
MATSUDA SANGYO CO., LTD.



品質保証 食材流通

商品仕入

仕入先/取扱商品



水産品

畜産品

農産品

品質管理 技術指導

商品販売

品質保証 食材提案 物流サービス

お客様



貢献できる社会的課題: SDGs





代表取締役社長 松田 芳明

社会や事業環境の変化に迅速に対応しながら長期視点の取り組みも強化し、新たな成長ステージへの移行を目指します。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、当社の2022年3月期第2四半期(2021年4月1日～2021年9月30日)のIR HANDBOOKをお届けいたします。

本誌を通じて、当社に対するご理解を深めていただければ幸いです。

2022年3月期第2四半期の業績と配当についてお聞かせください。

当第2四半期の世界経済は、新型コロナウイルス感染症による景気後退から徐々に回復したものの、生産活動や個人消費は各国や地域での制限等を背景に先行き不透明な状態で推移しました。国内では生産活動や企業収益に持ち直しが見られた一方、緊急事態宣言の再発令によって個人消費の動きが制限されるなど、依然として厳しい状況が続きました。

こうしたなか貴金属関連事業では、営業展開の強化や国内外の生産拠点の活用により、貴金属原料の確保や化成品等の販売、産業廃棄物処理受託の拡大に努めました。その結果、貴金属リサイクルの取扱量と産業廃棄物の処理受託がともに増加し、金製品や銀製品等の販売増加に加え貴金属相場の上昇もあり、増収増益となりました。

食品関連事業では、新型コロナウイルス感染症によるサプライチェーンの混乱が続くなか、多様化する顧客ニーズに応えた商品開拓と安全・安心な商品の安定供給による拡販に取り組みました。その結果、水産品、畜産品、農産品のいずれにおいても販売量が増加し、増収増益となりました。

以上により、当社の2022年3月期第2四半期累計の連結業績は、売上高は前年同期比21.8%増の1,360億41百万円、営業利益は同98.1%増の72億69百万円、経常利益は同112.7%増の78億34百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同99.9%増の54億

69百万円となりました*。

第2四半期末の配当金については、本年11月に上方修正しました通り、1株当たり22円といたしました。また、2022年3月期の期末配当は22円を予想し、年間配当は、前期から6円増配の44円とする予定です。

*収益認識に関する会計基準等の適用により、当第2四半期の売上高は87億16百万円減少し、営業利益、経常利益はそれぞれ1億2百万円減少しております。

2022年3月期通期の業績予想が上方修正となりましたが、足元の事業環境認識と今後の取り組み方針等を教えてください。

2022年3月期通期の業績予想は、貴金属関連事業における市場環境の回復や貴金属相場の上昇、食品関連事業における市況の好転等を背景に、足元の業績が好調に推移していることを踏まえ上方修正いたしました。しかしながら今後もコロナ禍等をきっかけとする社会構造や事業環境の変化は続く見込みであるほか、新たなリスクが顕在化する可能性もあることから、当社グループは、引き続き環境変化への適切・迅速な対応に努めるとともに、次期中期経営計画での新たな成長ステージへの移行に向けた準備を進めてまいります。

各セグメントの重点施策と、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

「東アジアで資源循環を創造するリーディングカンパニー」の実現を目指し、「資源循環ビジネスを始めと

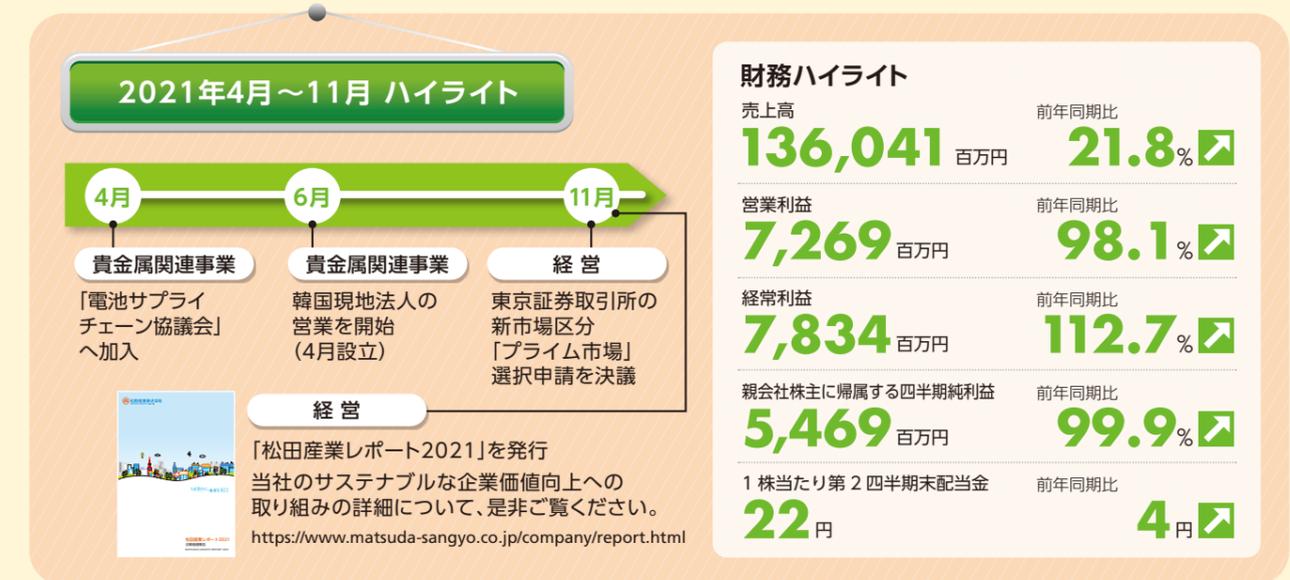
する顧客価値提案強化と営業体制整備」「自動車関連市場／化学関連市場／海外市場の拡大」等に注力してきた貴金属関連事業では、本年4月、新たな営業・マーケティング拠点として韓国法人を新設し、東アジアネットワークのさらなる強化を図りました。また、中期経営計画の経営戦略として注力してきたこれらの取り組みの成果を土台に、今後はサステナビリティや脱炭素など長期視点からの価値創造も強化することで、持続的な企業価値向上につなげていきます。

「お客様の商品開発のベストパートナー」の実現を目指し、「強い商品作りの為の開発／品質保証／生産管理支援機能強化」「顧客ニーズに応じた商品ラインナップ拡充」等に注力してきた食品関連事業では、

コロナ禍以降のサプライチェーンの混乱や食のスタイルの変化に真摯に向き合いながら対応策を講じてきた結果、増益基調に回帰することができました。これからも引き続きグローバルな調達先の確保や品質管理とともに、食材のサプライチェーン全体の管理を通じて食の安定供給に努めてまいります。

今後も社会や事業環境の激しい変化が予想されますが、当社グループは創業以来の揺るぎない企業理念のもと、事業を通じて社会の持続的発展に貢献し続けてまいります。

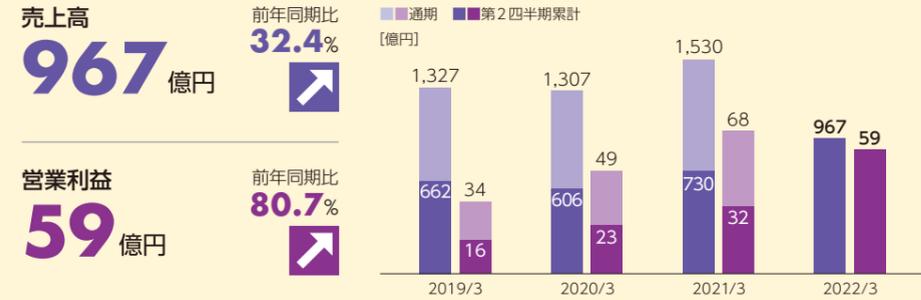
株主の皆様におかれましては、今後とも何卒一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



貴金属関連事業

2022年3月期第2四半期の業績

主力顧客であるエレクトロニクス業界では、半導体不足に伴う自動車市場等の生産低下があったものの、スマートフォン市場の回復や5Gの進展等を背景に、電子部品・デバイス分野の生産が回復傾向となりました。こうしたなか、貴金属リサイクルの取扱量や産業廃棄物の処理受託は増加し、金製品・銀製品等の販売量増加に加え全体的な貴金属相場の上昇もあり、売上高および営業利益は増加しました。



通期の見通しと施策

半導体不足や貴金属相場下落等の懸念はあるものの、電子部品・デバイス分野の生産は引き続き好調に推移するものと予想しています。今後も貴金属リサイクル原料回収の拡大に取り組み、高性能電子材料や化成品等の製商品の販売を強化していくなど、業容の維持・拡大を図ります。

TOWARD CARBON NEUTRALITY

創業以来の資源循環ビジネスが脱炭素にも貢献

脱炭素へ向けた動きが国内外で加速するなか、地球環境への負担を抑えた資源利用が求められています。世界的な電気自動車化の潮流において当社が推進する「大型リチウムイオン電池事業」は、電池内に含まれるレアメタルの循環によるサプライチェーンの強靱化だけでなく、天然資源の採掘量削減にも寄与する取り組みとなります。貴金属製品についても、電子部品や半導体等からリサイクルした金のみを原料としたシアン化金カリウムの市場投入を行うなど、社会の要求にお応えしています。当社グループは今後も、創業以来注力してきた資源循環ビジネスを通じ、脱炭素にも着実に貢献していきます。



レアメタルを含むブラックマス (LiB破碎選別処理により捕集)



リサイクル金を100%用いたシアン化金カリウム (製品名:ECO PGC683)

貴金属関連事業

拠点

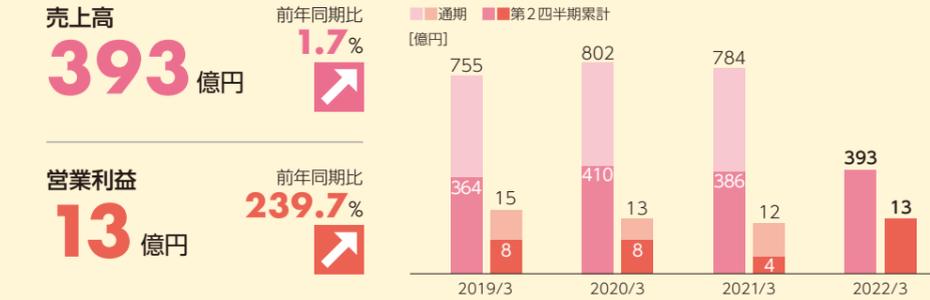
タイ現地法人	フィリピン現地法人
シンガポール現地法人	中国現地法人
マレーシア現地法人	ベトナム現地法人
台湾現地法人	韓国現地法人 NEW



食品関連事業

2022年3月期第2四半期の業績

主力顧客である食品製造業界では、新型コロナウイルス感染症の影響による業務用食品の需要低下や資源価格の上昇等から総じて厳しい状況となりました。また、コンテナ不足等を含む世界的なサプライチェーンの混乱もあり、食資源の安定的供給において注意が必要な状況が続きましたが、水産品、畜産品、農産品の販売量は増加し、売上高および営業利益は増加しました。



通期の見通しと施策

引き続き新型コロナウイルス感染症や米中貿易摩擦の影響懸念をはじめ、原燃料価格の上昇やコンテナ不足などに伴う輸入コスト上昇が予想されますが、あらゆる方策を駆使し顧客ニーズに対応した商品の開拓・提供を継続し、事業の拡大を進めます。

STABLE FOOD SUPPLY FOR VARIOUS NEEDS

食の安定供給と取扱商材の拡充に注力



コロナ禍で食のスタイルが大きく変わるなか、当社グループは、冷蔵・中食用食材などの安定供給に注力することで、楽しみ需要の拡大に役立っています。特にコロナ禍によって原材料の調達が困難となった加工メーカーなどのお客様に対し、広範で多岐にわたる当社の仕入ネットワークを活かした商品を提案し選ばれています。また、環境負荷が小さい大豆ミート原料の展開や、骨取りなどの一次加工を施した凍魚の販売など、付加価値を加えた取扱商品の多様化にも積極的に取り組んでいます。

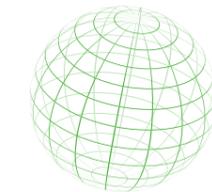
食品関連事業

拠点

中国現地法人	タイ現地法人
ベトナム現地法人	台湾支店

グローバルネットワーク — 調達先 —

北米地域	魚肉すりみ/冷凍野菜/乾燥ポテト/乾燥卵/ポーク/ビーフ
南米地域	チキン/ポーク/イカ
オセアニア地域	ビーフ/冷凍野菜
アジア地域	魚肉すりみ/エビ/イカ/タコ/アサリ/カニ/チキン/冷凍野菜/乾燥卵/乾燥ポテト
ヨーロッパ地域	ポーク/ビーフ/乾燥卵/冷凍野菜



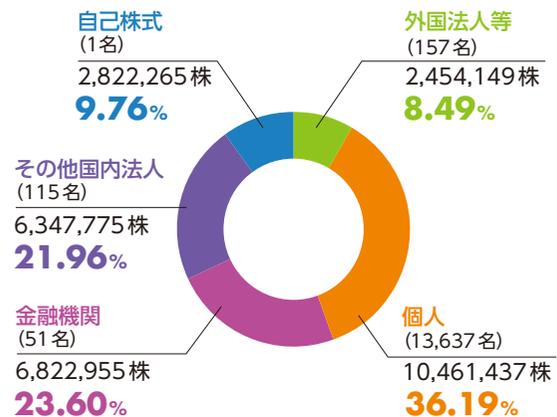
会社概要 (2021年9月30日 現在)

商号	松田産業株式会社
本社所在地	東京都新宿区西新宿1-26-2
設立年月日	1951年6月18日
資本金	3,559百万円
従業員数(連結)	1,483名
主な事業内容	貴金属回収製錬、貴金属地金・電子材料他の販売、食品加工原材料の卸売、産業廃棄物の収集・運搬・処理
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人

株式の状況 (2021年9月30日 現在)

株式の総数	40,000,000株
発行済株式総数	28,908,581株
株主数	13,961名

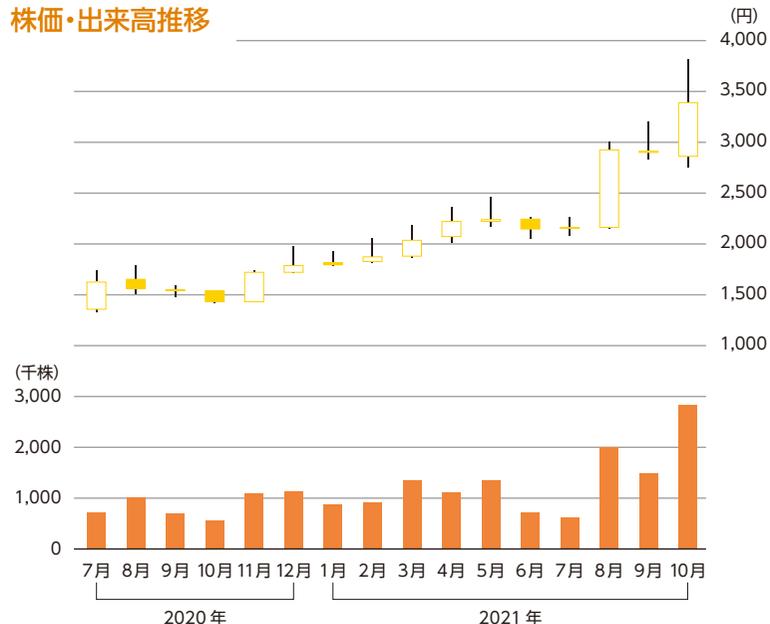
所有者別分布状況 (2021年9月30日 現在)



(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株価・出来高推移



大株主 (2021年9月30日 現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
松田物産株式会社	3,570,649	12.35
松田芳明	3,501,265	12.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,689,900	5.84
松田邦子	1,434,540	4.96
明治安田生命保険相互会社	931,700	3.22
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	797,400	2.75
松田和子	793,796	2.74
對馬純子	793,758	2.74
住友生命保険相互会社	765,500	2.64
株式会社みずほ銀行	502,190	1.73

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL:0120-232-711 (通話料無料) (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL: https://ir.matsuda-sangyo.co.jp/ja/Top.html (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

株主優待

1 対象株主

毎年3月31日現在、当社株式を1年以上継続して、1単元(100株)以上保有する国内在住の株主様を対象といたします。

※なお、1年以上継続保有の株主様とは、同じ株主番号で3月31日および9月30日現在の株主名簿に3回以上連続で記載または記録された株主様です。

2 優待の内容

一律2,000円相当の当社オリジナル「QUOカード」を贈呈いたします。



3 贈呈の時期

毎年1回、当社定時株主総会終了後の6月下旬発送を予定しております。

ホームページのご案内

松田産業

検索

トップ画面

当社の事業や強み、最新の取り組みをご紹介します。ぜひ、ご覧ください。



証券コード:7456

東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル
Tel. 03-5381-0001 (代表)

